

# 住ま

## \*…夢のガーデニング？

霜柱が立つこの季節、春に向けての準備にいそむガーデナーも多いのではないだろうか。庭造りは、今や憧れの住まいに欠かせない要素だ。確かに、たまの雑草取りで土や草の匂いに触れると、俗世間から離れた解放感がある。庭もきれいになって気分は爽快だ。しかし、それが「いつも」となると話は別だ。自慢の庭がいつのまにか重荷になるケースも少なくない。住宅リフォームと関連したエクステリアのリフォームでは、意外にも「土をなくす」方向の希望が多いからだ。素敵なお庭をつぶして趣味室を増築した方が

## Let's リフォーム

西田恭子

段差のあった庭全体にデッキを設けた。隣家との間に目隠しを設け、庭の植栽はプランターとした

「庭が狭くなって気が楽になった」とおっしゃったことがある。かがんだ姿勢での草取りは高齢になると重労働だ。きれいに手入れしてきた人ほど、伸びた雑草に心が痛むのだろう。

土をなくすには、庭にタイルや石を敷き詰め、シンボルツリーや花壇の部分のみ土を残す。タイルや石を敷くときは、日曜大工ではなかなか難しい。

あるいは、ウッドデッキ



敷いて砂利を敷き施工する場合が多いが、デッキのすき間から顔を出す雑草も楽しいと感じる人もいる。

ウッドデッキを部屋の床の高さとし、そうすると、リビングが広がったように感じられる。サッシを高さのあるものに交換するとさらに効果的だ。出入りが楽なので、ペットと遊ぶ、食事したり、室内の延長として使える。ただし庭の床レベルが上

がり、隣家をのぞきこむ高さになりがちだ。目隠しの塀を立てるなど、近隣にも十分に配慮したい。また、素材となる木は、耐用年数やメンテナンスを考慮して選ぶ必要がある。

昨今、ホームセンターには陶器と見間違うほどおしやれで軽いプラスチックのポットが並ぶ。移動しやすさを望む方にはお勧めだ。プランターでの庭仕事は床レベルから高くなり、その中の草取りの姿勢も剪定も格段に楽になる。年を重ねた暮らしはコンパクトがテーマだと考えているが、庭の管理にもそういう視点が必要なのかもしれない。

(三井のリフォーム 住宅生活研究所所長、1級建築士)

## 庭の植栽はプランターやポットで